

大使からの活動報告(2013年12月)

平成 25 年 12 月 15 日
在グアテマラ日本大使(川原)

◎天皇誕生日祝賀レセプション(12月5日)



12月5日、グアテマラ市内で開催された天皇誕生日レセプションには、外務大臣夫人、外務次官他各省次官等を含め約270人の方々にお越し頂きました。

会場内では、グアテマラと日本の国家独唱、鏡割り、日本料理を会場内で調理・提供(石毛公邸料理人)なども行い、参加者にお楽しみ頂きました。また、同レセプションでの当

方の御挨拶が、後日、当地紙に掲載(下側写真)されました。

(←左真中の写真:左から2人目外務大臣夫人、同3人目クラベリエ次官)



◆草の根無償による小学校改修プロジェクト引渡式(12月11日)

グアテマラ市から50数キロ南方にあるサンタ・ロサ県のポトレリョス公立小学校(児童数 180 名)で、我が国草の根安全保障支援スキームによる学校施設改修工事が完工して引渡式がありました。



児童生徒、先生、校長先生をはじめ地元市長さんや教育長さん、また、地元の支援 NGO 団体、住民代表等の方々の出席がありました。雨漏りがなくなり、ペンキの色も鮮やかな校舎や衛生的な調理室・男女別の水洗トイレなどが新たに整備されて、児童生徒たちにとって、学校での勉強に専念できる環境になりました。



高学年の小学生達に将来何になりたいのか、質問をしたところ、医者になりたいと思っている女の子が数名いたのに驚きました。村に診療所はありますが、お医者さんは、週のうち、特定の曜日にだけしか来ないということ、大きくなって地域住民のために役に立つお仕事をしたいです、といった答えが返ってきたのには、とても感心しました。(←左写真:小学校に集まって頂いた児童と先生達)

◎グアテマラ外務大臣主催 クリスマスレセプション(12月2日)



12月2日(月)、カレイラ外務大臣主催のレセプションがありました。カレイラ大臣は、先週末まで、仏、ロシアへ出張しており、前日、帰国したばかりでした。当地外交団に対して、毎年開催をされているようです。(←左写真:外務大臣夫妻)

◆JICA 対グアテマラ2国間協力レビュー・ミッションと意見交換を実施

従来の当国への日本からの協力活動のレビューを行い、今後10年間の支援方針の策定作業が進行中です。現地調査が終わった12月上旬、JICA レビュー・ミッション(团长:藤城 JICA 中米カリブ課長)と日本大使館との間での意見交換を行いました。

これまでの当国への支援について調査したところ、給水、教育(小学校算数能力向上)や母子栄養改善事業など、大変にめざましい効果があり、評価が高いこと、当国からJICA研修員の受入れを実施した結果、研修を受けた人材が各界で活躍して、評価の高いことなどがわかりました。

当国へ今後も持続性があり、効果が高い協力分野を選んで、優先的に実施する具体的方針は、年明けに報告書としてまとめられます。その後、当国政府関係者との方針に関するすりあわせを行い、来年夏頃、新たな方針にそってプロジェクト形成が開始される見込みです。その成果が大いに注目されます。

◎当地そろばん大会(12月7日)

当地の私立大学の講堂を借り切って、そろばん大会があり、3歳児から80才の方まで120名の方が参加しておりました。今回は16回目を数えるのだとお聞きしました。御指導にあたっておられるキラ先生は、日本に4年



間滞在しており、「そろばん」の素晴らしさを知ったそうです。指先を使うので、脳の発達にも良く、年をとっても、ぼけ防止にも効果があるとの話を指導者の方から伺いました。

◆当地日本人学校児童の大使館訪問:

12月6日、グアテマラ日本人学校の2年生から6年生児童が先生に引率されて大使館を訪問してくれました。大使館の役割・活動について、各館員からの説明をとて興味をもって聞いていました。

■グアテマラ市のアルスー市長を訪問

12月12日、グアテマラ市庁舎にアルスー市長(左写真:右側の方)をお訪ね致しま



した。1996年から2000年まで大統領を務められ、現在まで首都の市長さんを3期されておられます。97年9月に常陸宮同妃両殿下がグアテマラを御訪問された時のこと、現在の市政の中での重点事項などについてお伺いすることができました。特に首都の水確保や道路に自動車があふれ混雑する現状など、大きな課題であるとお聞きしました。また、

同市長夫人は、ストリートチルドレン対策に取り組んでおられ、当初7名からはじめて現在では、2千名の子供たちのお世話をされておられること、市長から、こうした子供たちの知育のため、そろばんを今後普及したい、というお話がありました。

■グアテマラ アンティグアコーヒー農園

12月14日、首都から50分ほどのところにある古都アンティグア市(ユネスコ世界遺



産)近郊で、1860年代からコーヒー農園を営んでいるフィラデルフィア農園を訪問する機会がありました。最上級のアラビカ・コーヒーは、海拔1500米のところで栽培され、11月から3月の乾季期間中に収穫されています。400ヘクタールのコーヒー園には、苗床(←左側写真)、数年後に育った



コーヒーの木からの手作業でコーヒーの実を栽培しているところ(右側写真⇒)、収穫後に、天日でコーヒー豆を数十日間乾燥(左側写真)し、工場内で袋詰めして出荷迄を見ることができます。長い年月・過程を経て、最高品質コーヒーが、日本にも輸出されています。(了)

